

昭和60年5月11日

四国歯学会

会報

【第7号】

徳島市蔵本町3丁目18-15 徳島大学歯学部内

I 第4回総会・例会御案内

1. 第4回総会

昭和60年7月13日(土) 13:00～13:30

於・徳島大学歯学部大講義室

総会次第 ○議長選出 ○会長挨拶 ○会務報告 ○議事

第4回総会より春季に定例総会を行うことになり、上記の予定で開催されます。会員各位の御出席をお願いいたします。

2. 第5回例会

昭和60年7月13日(土) 13:30～16:00

於・徳島大学歯学部大講義室

総会に引続いて第5回例会を開催いたします。

第3回・第4回例会と同様、一般演題を募集いたしますので、多数の演題をお寄せ下さい。尚、特別講演として、この度、徳島大学歯学部口腔外科学第一講座教授として就任されました、長山勝氏の講演を予定いたしております。

<応募要領>

- 6月8日までに学術委員(高田充 口腔生理学講座, 中條信義 歯科麻酔診療室)へ、演題、演者(講演者に○印)、所属を原稿用紙に記入して申込んで下さい。
- 講演時間は10分間、討論時間は2分間を予定いたしております。

- 次回の会報に掲載しますので、講演後に 400 字程度の抄録を提出して下さるよう、お願いいたします。

Ⅱ 第 3 回総会報告

昭和 59 年 12 月 15 日（土）13：00 より第 3 回総会が開催され、開会の辞、会長挨拶の後、松本直之理事が議長に選出され、会務報告並びに議事が行われました。要旨は以下の通りです。

1. 会務報告

1) 庶務報告

- 四国歯学会登録会員数（昭和 59 年 12 月 1 日現在）

会員総数 337 名

- 名簿の発行について

昭和 59 年 11 月に発行、配布を行った。

- 備品等の購入について

学会開催に必要なスライドプロジェクター等を購入した。

2) 会計報告および監査報告

- 四国歯学会 58 年度会計報告（別掲）が行われ、川田雄祥、桑山則彦両監事より監査の結果、適正であるとの報告がなされました。

3) 学術報告

- 第 3 回例会、並びに夏季講演会の開催についての報告がなされました。

2. 議事

1) 昭和 59 年度予算の承認を求める件

- 会計担当運営委員より、昭和 59 年度予算（別掲）が提示され、承認されました。

2) 監事選出の件

- 学外より川田雄祥氏が引続き、学内より桂茂氏が新たに監事として選

出されました。

3) その他

運営委員会より予算審議を年度前半に行うのが望ましいとの理由で、定例総会を春季に開催することを常例とするとの提案があり、会則第20条ののっとり、第5章第15条2項の定例総会の開催時期の秋季を春季とすることが議決されました。

Ⅲ 第4回例会報告

上村修三郎教授の帰朝講演，佃富夫講師の帰朝講演並びに一般演題8題が講演され，前回同様活発な討論がなされました。

Ⅳ 会務報告

1. 役員人事の一部変更について

- 小池正夫評議員の転任に伴い，東富雄氏（口腔病理学講座助教授）が新評議員として選出されました。
- 長山勝氏が口腔外科学第一講座教授就任に伴い，会則第10条により，新理事に選出されました。

2. 昭和58年度会計報告

収 入

	決算高	予算高	増 減
入会金	6 6,000	6 0,000	+ 6,000
58年度会費	4 16,000	6 00,000	- 184,000
58年度賛助会費	6 25,000	8 00,000	- 175,000
寄付金	3 10,000	3 00,000	+ 10,000
雑収入	1 3,915	5 0,000	- 36,085
繰越金	8 87,562	8 87,562	0
合計	2,318,477	2,697,562	- 379,000

支 出

	決算高	予算高	増 減
会報発刊費	22,100	150,000	-127,900
学会開催費	109,000	450,000	-341,000
事務費	61,000	100,000	-39,000
通信費	9,490	50,000	-40,510
雑費	1,420	50,000	-48,580
予備費	2,115,467	1,897,562	+217,905
合計	2,318,477	2,697,562	-379,085

3. 昭和59年度予算案

収 入

入会金	70,000	新卒	60名
		学外	10名
59年度会費	600,000	一般会員	286名
		院生	28名
59年度賛助会費	500,000	25社中20社を期待	
雑収入	12,000	普通預金利息	9,671+?
繰越金	2,115,467		
合計	3,297,467		

支 出

会報発刊費	50,000	第5号,第6号
学会開催費	50,000	学術講演案内状印刷等
事務費	130,000	封筒代,受領証印刷費等
通信費	120,000	
備品費	350,000	
雑費	50,000	名簿等
予備費	2,547,467	
合計	3,297,467	

第4回例会講演抄録

＜特別講演＞

ルンド大学（スウェーデン）、テキサス大学（アメリカ）
の歯科放射線科を訪ねて 上村 修三郎

徳島大学歯学部歯科放射線学講座

文部省短期在外研究員として2ヶ月間、マルメ、フディング、サン・アントニオそしてシアトルの各大学歯科放射線科を回らせていただいた折、体験ならびに見聞したことを報告させていただきました。主な内容は以下のようです。

1. 伝統のあるルンド大学歯学部は歯科医師過剰時代と小学校低学年のウ触罹患者の激減とがからみ廃校となる決定が下されている。
2. 顎内障に対して顎関節二重造影法が日常検査として用いられ、診断能の著しい向上がなされている。現在その方法を用い、治療のための咬合挙上量の決定や、関節円板摘出術あるいは縫合術後の関節諸組織の変化についてリサーチが行われている。
3. アメリカでの歯科放射線学会の演題は、回転方式のパノラマX線撮影法や顎関節に関するものが多く、各施設の研究状況は進んでいる所もそうでない所もあり、全体にみればレベルは決して高くない。

Forsyth Dental Centerでの経験 佃 富夫

徳島大学歯学部口腔外科学第一講座

S58年1月からS59年8月まで約1年7ヶ月BostonにあるForsyth Dental Centerの免疫学部門に留学しておりました。

ここは、ご存知の先生方も多い事と思いますが小児歯科では世界的に有名な診療所である事を出発前に聞かされました。

しかし、現在では小児歯科はなく、ハーバード大学医学部の小児病院に移動している様です。フォーサイスについて簡単に説明しますと臨床部門（歯周病科、歯内療法科、保存科、矯正科、一般歯科）と研究部門（生化学、微生物学、免疫学、組織学など）と衛生士学校の三部門から成り立っております。

場所はダウンタウンから少し離れたハーバードメディカルエリアの中にあり、隣りはボストン美術館、前はフェンウェイ公園と大リーグのボストンレッドソックスの本拠地があり、環境的には良い所だと思いました。しかし部屋代は高く、一部屋（バス、トイレ、簡単なキッチン付き）で500ドル前後と、東北の町ボストンは大都会ニューヨークよりも家賃が高いとの評判でした。私の場合は3人家族のため2ベッドルームを強制的に押しつけられ家賃には苦勞しました。

話しが少し、ずれましたが、フォーサイスの臨床研究部門はハーバード大学歯学部大学院学生の教育の場となっており、彼らの診療、研究に対する熱心で、活発な態度には驚かされました。

私が勤務していた免疫学部門はDr. Taubmanが主任で、フォーサイスの中でもスタッフの多い所でギリシャ人、スウェーデン人、アラブ人、中国人、日本人とまことにインターナショナルなところでした。

フォーサイスでの私の研究課題は徳島で行っていた局所免疫の延長線にあったもので、それほど異和感はありませんでしたが、彼らの研究に対するどん欲なまでのactiveな姿には圧倒され、学ぶべき所が多くある様に思いました。しかし教室員のバースディパーティとか祝い事の時には手料理を持ち寄り、ワインやビールを飲みながらワイワイガヤガヤと騒ぐ陽気な彼らを見て、うらやましくも思いました。やはり一番身にしみた事は言葉のハンディが余りに大きいと言う事でした。自分の仕事をする分には不自由はないのですが抄読会の時など自分の言いたい事が十分に相手に通じない心細さは、身から出たさびとは言えつくづく自分がイヤになりました。

それでも1年ぐらいますとくそ度胸がつき昨年3月の第2回IADR (Dallas, Texas)に発表できた事は良い経験になりました。最近アメリカの経済力がいろいろ指摘されておりますが、広くて、大きなアメリカを見えますとまだまだ底力はあるなあと言う印象を強く受けました。

約1年7ヶ月のボストンでの生活の失敗談や苦勞話しは数えきれませんが、外の世界を見聞できた事が最大の経験だと思っております。世界は一つ、人類は皆……とまでは言いませんが、若い人達にとってある期間外国で研究生活する事は得る所が大きい貴重な体験だと思います。

＜一般講演＞

1. エナメル蛋白質に対する

モノクローナル抗体の作製

○谷 慶明, 三橋由利子, 溝口満里, 小池正夫*

徳島大学歯学部口腔病理学講座

*東京都福祉局社会保険管理部

近年, 幼若エナメル質にアメロゲニンとエナメルリンとよばれる2種類の分子量を異にする蛋白質があることが明らかになり, それぞれの特性やエナメル質形成期における役割などが注目されている。今回, 我々は牛の歯胚の幼若エナメル質から抽出した分子量14K~20Kのアメロゲニンを用い, そのモノクローナル抗体の作製を行った。モノクローナル抗体の作製はハイブリドーマの手法を用い, マウスに免疫した脾細胞とミエローム細胞を融合させた。その中より目的の抗体を産生しているものを選びクローニングし, 得られたクローンを大量培養した培養液から抗体を精製した。得られた抗体はImmunoblotにより抗原との反応を確認した。さらに, 得られた抗アメロゲニン抗体を用い, ラットの下顎切歯を酵素抗体法で染色した結果, 基質形成期のエナメル質のみに陽性の反応が認められた。また, この所見はヒトの歯胚においても同様であった。

2. Nifedipine 投与患者にみられた歯肉増殖症について

○西川聖二, 益田忠幸, 永田俊彦, 石田 浩, 若野洋一

本田和子*, 秋山良文*, 中條信義*

徳島大学歯学部歯科保存学第二講座

*徳島大学歯学部附属病院麻酔診療室

最近, Ramonらは, 抗狭心症薬Nifedipine服用患者に著明な歯肉増殖の認められる5症例を報告しその病態が, Dilantin歯肉増殖症と極めて類似していることを指摘した。

今回我々は, Nifedipineを服用している3名について, 口腔内診査を行う機会があり, 次の様な結果を得た。

(症例1) 60歳男性, 高血圧症及び狭心症のため, Nifedipine40mg/日服用中で, 肉眼的にDilantin歯肉増殖症と類似した著明な歯肉増殖を認

めた。

(症例Ⅱ) 53歳男性, 心筋硬塞発作以来, Nifedipine 30mg/日服用中であるが, 肉眼的な歯肉増殖は認められなかった。

(症例Ⅲ) 59歳男性, 大動脈弁閉鎖不全, 僧帽弁狭窄症の手術以来, Nifedipine 20mg/日服用中で肉眼的な歯肉増殖は認められなかった。

肉眼的に歯肉増殖を認めたのは, 症例Ⅰのみであるが, 歯肉の病理組織学的所見においては, 3症例ともに, 歯肉固有層での線維化, 棘細胞症など, Dilantin 歯肉増殖症の所見と極めて類似した所見が得られた。

3. ヒト唾液腺導管上皮細胞の dibutyryl cyclic AMP による分化誘導

○東 雅之, 吉田秀夫, 梁川哲雄

佐藤光信, 林 良夫*

徳島大学歯学部口腔外科学第二講座

*徳島大学歯学部附属病院中央検査室

ヒト唾液腺介在部導管上皮細胞は, 分化過程において pluripotency (多潜能力) を有する細胞であると言われている。今回我々は, ヒト唾液腺由来造腫瘍性介在部導管上皮細胞 (HSG) が, 分化誘導因子である dibutyryl cyclic AMP (dB-cAMP) により筋上皮細胞に分化誘導可能かどうか, 検索を行なった。HSG細胞に dB-cAMP を最終濃度 1mM になるように加え, 37°C 4日間培養後, Gimsa 染色により形態学的変化の検索, 酵素抗体法 (PAP) による myosin, S-100 protein の発現の検索及び免疫電顕をも含め電顕レベルでの超微構造の検索を行なった。その結果, 形態学的に筋上皮細胞様の elongation, PAP法により myosin, S-100 protein の発現の検出, 及び超微構造物さらに免疫電顕による myosin の検索にて filament 様構造物が認められた。以上のことは, 唾液腺由来導管上皮細胞は, dB-cAMP の存在下で, 筋上皮細胞に分化誘導可能であることを示しているものと考えられる。

4. 口腔扁平苔癬における血清インターフェロンの動態と局所免疫異常

○浦田 満, 吉田秀夫, 梁川哲雄, 由良義明
佐藤光信, 林 良夫*

徳島大学歯学部口腔外科学第二講座

* 徳島大学歯学部附属病院中央検査室

扁平苔癬の病因は未だ不明な点が多いが、病変粘膜の上皮、真皮領域の免疫異常を示唆する研究結果が多数報告されている。

そこで我々は、同病粘膜組織の凍結切片について上皮、真皮に存在する

Immunocompetent cell (ランゲルハンス細胞を含む)

Immunomodulator であるインターフェロン(IFN)の局在について検索を行った。その結果、病変粘膜の上皮には正常組織に比べ、より多くのランゲルハンス細胞と考えられる細胞を認め、上皮下組織には多数の $T8^+Tcell$, $T4^+Tcell$ を認めた。さらに、病変粘膜の組織切片にはIFNの存在が認められた為、同疾患患者血清中のIFN活性についても検索を行った。その結果、血清中の $r-like$ IFN 力価に50才以上の患者群において有意の高値を示し、 $IFN-\alpha/\beta$ は患者群全年令層において有意に高値を示した。

これらの結果は、口腔扁平苔癬の病態病理にはImmunocompetent cellに加え、内因性IFNが関与していることが強く示唆された。

5. 局所免疫機構より見たマウス胎児2次口蓋突起癒合過程

○小林章祐, 吉田秀夫, 久保弘樹, 佐藤光信

徳島大学歯学部口腔外科学第二講座

2次口蓋の形成過程は、両側口蓋突起の挙上、上皮癒合、上皮消失、間葉組織の癒合という順に起こるが、その生物学的機序はこれまで明らかにされていない。近年、人口蓋裂児末梢血リンパ球の電気泳動度が正常児のものより高い事及びマウス口蓋裂発生率とH-2抗原遺伝子の間に相関を示す等の報告があり、免疫機構が口蓋裂発生に関与している可能性が示唆されている。我々はこの観点より、Balb/cマウス胎児を用い、*in vivo*, *in vitro*の実験系で各種Immunoglobulin及び免疫複合物の検索を行った。つまり、胎齢135日、

14.5日、15.5日に胎児を摘出、ホルマリン固定後パラフィン切片を作製しこの切片を、抗マウスImmunoglobulin家兎血清を一次血清としたPAP法にて染色し、特異的呈色反応を検討した。その結果、マウス胎児中におけるImmunoglobulin subclassの存在を示唆する呈色反応を認めたので、各胎齢日及び各一次血清についての比較検討を加え報告する。

6. デジタル方式下顎運動測定器の

臨床応用に関する研究

○坂東永一、藤村哲也、鈴木 温、山本伊一郎
横山正秋、池上 正、久保吉廣、中野雅徳

徳島大学歯学部歯科補綴学第二講座

下顎運動のメカニズムを明らかにしようとする事は、歯科の基礎、臨床を問わず古くから関心を集めてきた研究課題の1つである。

デジタル方式下顎運動測定器は、上顎ならびに下顎に装着したそれぞれの顔弓間の位置関係を磁気スケールにより高精度かつ高速に測定する装置である。この測定器の開発により、ヒトの下顎運動測定に際して必要とされる6個の要素をほぼ完全な形で得ることができるようになった。

今回、ヒトの下顎運動と同じような運動を機械的に精密に行うことのできる6軸変位校正器を用いて、デジタル方式下顎運動測定器の校正ならびに補正を行い、下顎運動測定データの信頼性をより高めた。

また、得られた下顎運動データの解析より、口腔粘膜を傷つけないための滑面板の合理的設計法について提案した。

なお本研究の一部は、昭和58年度臨床研究特別経費によった。

7. 実験的口蓋床の発音に及ぼす影響に関する研究

—— 音声認識装置を用いて ——

○市場裕康，市川哲雄，中原信光，羽田 勝，松本直之

徳島大学歯学部歯科補綴学第一講座

義歯による発音障害の検査法には，語音発語明瞭度検査法などの聴覚的検査法，サウンドスペクトログラフやパラトグラフなどを用いた視覚的検査法があるが，これらはいずれも，人間の主観に依存する度合いが大きく，分析も難しく，多大な時間を要することが難点である。そこで我々は，近年，容易に入手が可能となった音声認識装置を用いて，義歯による発音異常を客観的かつ容易に評価しうる新しい発音検査法の開発を試みているが，今回，その前段階として，正常有歯顎者1名に，実験的口蓋床を装着して発音させ，聴覚と音声認識装置の聴取比較実験を行った。その結果，1. 音声認識装置は，聴覚と類似した認識傾向を示した。2. 音声認識装置の出力するスコア点数は，口蓋床が発音に与える影響度を評価する指標となり得ることがわかった。3. 音声認識装置は，義歯発音障害の最も重要な原因である子音部の変化をとらえていることがわかった。

8. 最近4年間における矯正患者の実態調査について

○丸山文章，田淵敏明，藤野貴子，山下 訓

住谷光治，六車 豊，高橋由行，矢野知己

梅原光司，山口和憲，河田照茂

徳島大学歯学部歯科矯正学講座

本科が開設されて，7年が経過しようとしている。この間，住民の社会的背景の変化，あるいは歯科医療機関の増加など，種々の要因により，徳島地方の不正咬合や矯正治療に対する意識が高まりつつあると考えられる。そこで，本地域の矯正歯科臨床の背景を得ようと実態調査を行った。調査資料は，昭和56年1月から，昭和59年10月までの3年10ヶ月間に当科を受診した2,737人の新患予診録をもとにした。結果として

1. 来院患者数は男子1,102人，女子1,635人で，その比は1：1.5であった。
2. 年齢別では7才から11才にかけて来院者が多く，8才が最も多い。

3. 不正咬合の種類では下顎前突が最も多く、ついで叢生，上顎前突となる。
4. 各地域の歯科医師数と大学附属病院への来院患者数との相関性は，比較的遠距離では，歯科医師数と正の相関関係があり，近距離では，歯科医師数と来院患者数とは相関性はなかった。

＜運営委員会よりのお願い＞

- 四国歯学会は，徳島大学歯学部を中心に，広く四国四県の諸先生方の御協力を得ての学会です。例会，講演会について，会員各位の御意見をお寄せ下さい。
- 昭和60年度会費をお納め下さい。年会費は2,000円です。直接事務局か，または下記に振込んで下さい。

◎ 阿波銀行蔵本支店 177-237700 四国歯学会

◎ 郵便振替口座 徳島1-7188 徳島大学附属病院郵便局 四国歯学会

- 四国歯学会入会御希望の方は入会金1,000円，年会費2,000円を添えて下記宛，お申込み下さい。

◎ 徳島市蔵本町3-18-15 徳島大学歯学部内 四国歯学会事務局
電 0886-31-3111 内線5102

または会計担当委員，庶務担当委員に直接お申込み下さい。